

福岡日仏協会設立60周年イベント

日仏文化交流プロジェクト2018

風の方程式

« *L'équation du vent* »
- expérience Son, Corps et Image -
音・からだ・映像の実験

2018

7月6日(金) 開場 19:00 開演 19:30

福岡アジア美術館 あじびホール

博多リブレイン8F 福岡市博多区下川端町3-1 TEL/092-263-1100

前売/予約 3,000円 学生 2,500円 当日 3,500円

チケット販売: チケットぴあ (Pコード: 639434)
<https://t.pia.jp> または
<http://ticket.pia.jp/pia/event.ds?eventCd=1827046>

予約・問合せ先: 090-5083-9055 (原田)
n_1949.1.1@docomo.ne.jp

[主催] 福岡日仏協会 [共催] 舞踏青龍會
[後援] 西南学院大学女子同窓会「西南ゆりの会」| LOVE FM | 九州産業大学芸術学部 | 日本映像学会西部支部 | 西日本新聞TNC文化サークル
アンスティチュ・フランセ九州 | 福岡市 | 福岡市姉妹都市委員会 | 福岡EU協会
[協力] GALLERY SOAP | ギャラリー風 | 屋根裏蔵 / アートスペース鏡 | 河合文化教育研究所・身体表現教育研究会 | DOLCE

ガルロの超絶

ベースの旋律

魂の舞踏

映像の魔術

奇蹟のコラボレーション。

風に乗って繰り広げる

関連企画

鶴留一彦 写真展「舞踏の風」7月3日~ 7日 於: ギャラリー風(天神新天町)
(入場無料) 7月8日~14日 於: GALLERY SOAP(小倉)

〈北九州公演〉

7月8日(日) 開場 15:30 開演 16:00 定員60名

会場: GALLERY SOAP (北九州市小倉北区鍛冶町 1-8-23 2F)

前売/予約 2500円 +1drink
当日 3000円 +1drink (5席のみ)
学生 2000円 +1drink

予約・問合せ先: GALLERY SOAP 093-551-5522 (TEL/FAX)
info@g-soap.jp (E-mail)
原田 090-5083-9055
n_1949.1.1@docomo.ne.jp

※北九州公演はチケットぴあでは取り扱っておりません。
メールもしくは電話のみの受付になります。

[主催] 河合文化教育研究所・身体表現教育研究会
[後援] 日本映像学会西部支部
[協力] GALLERY SOAP、舞踏青龍會、舞踏教場・小倉、DOLCE

19年の時を経た日仏（ボルドー・福岡）アーティストの交流と成果 福岡日仏協会

ガルロの音楽プロジェクト「Vent de Guitares(ギター風の風)」は1994年10月に大西洋岸、アルカシオン湾南部に位置するヨーロッパで一番高い、標高110mの砂丘、ピラ砂丘に54本のギターを立てて並べ風に奏でさせる前代未聞のサウンド・インスタレーションとして出発し、その模様はフランスをはじめ世界中のメディアで紹介されました。その壮大なランド・アートとも言うべき試みを日本でも実現すべく、ガルロは1999年2月に福岡・ボルドー姉妹都市提携20周年を記念するメインアートイベントのボルドー市代表として当時のボルドー市文化部長に推薦され(旧)九州日仏学館の招聘により来福し、奈多の海岸においてそれを行いました。その、ボルドーのアートスピリットと福岡の風との出会いは、「Kaze' 1999」と名付けられ、福岡ソラリアー階ホールの全面を使って砂丘を再現して公開され話題を呼びました。福岡滞在中のガルロには、福岡の風との出会いに並ぶもう一つの大きな出会いがありました。それは、福岡を拠点に活動する舞踏家原田伸雄との出会いです。

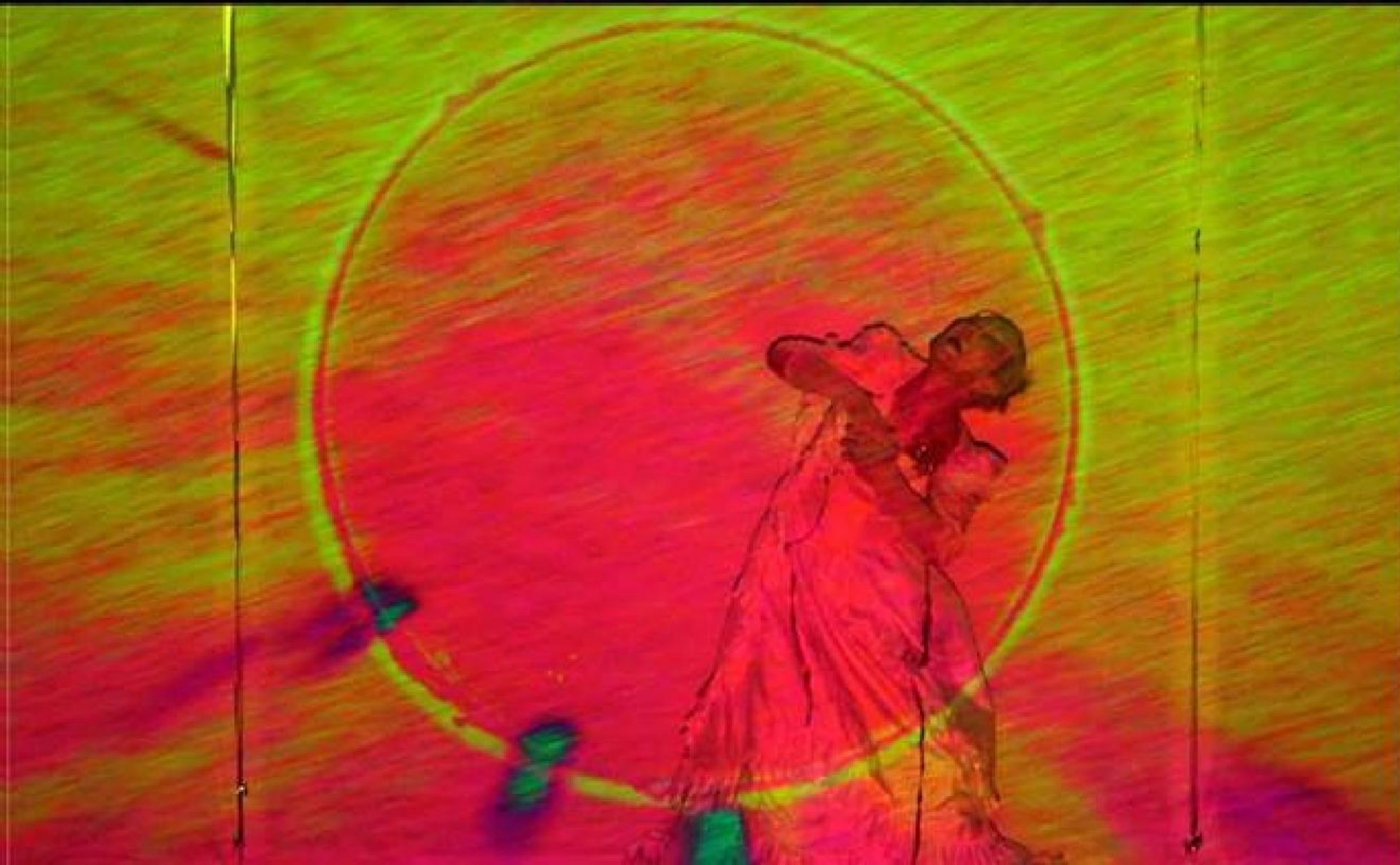
原田との出会いはその後のガルロの創作活動に少なからぬ影響を与え、原田も又彼の音楽性を高く評価し、特に、CDアルバム「Vent de Guitares」は、原田及び原田率いる舞踏青龍会のメンバーの舞踏作品を支える重要な音源の一つとして20年近くにわたって愛され使われ続けて来ました。

1999年の別れに際し再会と共演を約しながらもおよそ20年の歳月を経た昨年2017年の4月、原田を含む4名のメンバーが渡仏し、ガルロが活動の拠点とするボルドーでその約束は果たされ、大きな反響を呼びました。その時の模様は「HARADA Nobuo Generative Butoh Dance/ Live in Bordeaux」としてDVD化されフランスで発売されています。

1999年の福岡での出会いから昨年のボルドー、そして今回の福岡での企画に至る流れは、姉妹都市である福岡市とボルドー市による文化交流プロジェクトに端を発し、それが、民間のレベルで、個々のアーティストの内部で、更に展開され深められた好例と言えましょう。この豊かな流れを私たち一人一人の魂の深みにおいて受け止めると共に幅広く共有することを喜びとし、真の文化の発現とその交流の実現を切に願い、日仏文化交流活動を60年続けてきた福岡日仏協会の記念イベントとして披露するものです。



©Xavier Cantat



アーティストプロフィール

ガルロ (Garlo)



1957年、ケベック生まれ。作曲家、ミュージシャン、サウンド・プロデューサー/デザイナー/アーティスト、ベースプレイヤー。レコーディングスタジオ及びレーベル「BP12」を運営。自身の作品として、これまでに15枚のCDを発表。1993年にリリースした初のアルバム「Tribal Scandal」は、同年のミラノ・コレクション、ヴェルサーチのショーで採用される。1994年、ランド・アートと音楽を融合させた「ジオ・アコースティック」というユニークなインスタレーション「ギター風の風」で一躍話題を呼び、翌年発表の代表作「ギター風の風」は、映画「Ecoute le temps/時を聴け」監督：アランテ・カヴァイテ、2006年)やドキュメンタリー、舞台でのBGMとして今日でも使用されている。後、1999年に福岡、2000年にモニュメント・パレーを舞台にインスタレーションを展開。それぞれ、「Kazé」(2000年)と「Earth Link」(2004年)と題してCDを発表。他のアーティストへの楽曲提供やプロデュースも数多く手掛ける他、映画、CMやアニメーション(「実りの森の仲間たち」NHK教育、プチプチ・アニメ枠で放送)等の映像音響分野でも幅広く活躍。関連サイト：<http://bp12.fr><http://ventdeguitares.com> (2014年、「ギター風の風」の創作20周年を記念して、アルバム「ギター風の風2014」を発表。また、同年開設したVent de Guitares (ad lib)のWebサイト上ventdeguitares.comで、風のかで生み出される音源とその収録時の映像を呼びかけた参加型の作品制作を展開中。世界各地からの参加数は現在130を超え、総収録時間は7時間以上に及んでいる。)

原田伸雄 (はらだのぶお)



1949年福岡生まれ。大野一雄の即興舞踏、笠井観の聖霊舞踏の系譜を継ぐ。現在、福岡を拠点に女装せる益荒男舞踏家として芸術と反芸術の境界線上を滑稽かつシリアスに往還中。舞踏青龍会主宰。河合文化教育研究所研究員。

主な活動

昭和54年 「鹽鏡剣一巻ノ真霊(マヒ一)」(早稲田銅鑼魔館)で舞踏家として独立デビュー
昭和56年 「海之霊(わたつみ)」(東京第一生命ホール)
平成10年 「土方巽'98 彼方への風」(NTT 夢天神ホール)
平成11年 福岡アジア美術館第1回レジデンス展ナリニ・マラニ「ハムレットマシン」(映像インスタレーション)でハムレットとオフィーリアの二役を演じる。
平成17年 「盟神探湯(くがたち)」(パリ・ベルタンボワレ)
平成18年 「進り水(はしりみず)」(パリ、福岡)
平成19年 「花嵐」(パリ、福岡、東京で巡演)
平成20年~23年 毎月29日に福岡のライブ会場スペーステラにて連続舞踏公演「肉体の劇場」を計40回展開。
平成21年* プッチェボン・アルーンベン監督の日タイ合作映画「suspender Moment」で主演
*クランクアップ時
平成29年 「エーテルの赤い河・ボルドー版」を4月、LE LIEU SANS NOM-劇場にて(フランス/ボルドー)
「エーテルの赤い河・北京版」を4,6,9,12月の4回にわたり、PLATFORM CHINA d' ROOM及び北京七九八劇場にて上演(中国/北京)
また、平成25年より、国内外の舞踏家が福岡に集う年4~5回のアトリエ定期公演「肉体の四季—舞踏曼茶羅—」を開始し、現在も継続中。

黒岩俊哉 (くろいわとしや)



映像作家

1966年 熊本市生まれ。九州芸術工科大学画像設計学科卒。同大学大学院情報伝達専攻修了後、1992年より九州芸術工科大学画像設計学科視覚芸術講座助手。1999年より九州産業大学芸術学部デザイン学科ビジュアルデザインコース講師。現在、九州産業大学芸術学部芸術表現学科メディア芸術専攻教授、同芸術表現学科学科主任、同大学院芸術研究科後期博士課程教授を務める。主な担当科目は「映像芸術表現論」「メディア芸術実習・演習」「映像芸術設計制作実習」など。メディア芸術における映像芸術の理論・技術・表現を専門とする。大学時代より、実験映像の制作を始め、映像芸術を探索しながら、長年にわたって作品を発表し続けている。実験映像作品のみならず、他芸術分野とのコラボレーションも多く、映像と舞台、パフォーマンス、音楽、サウンドアートとの総合的なメディア芸術も手がける。特に舞踏家の原田伸雄とは、10年以上にわたって、舞踏と映像とを融合させた舞台芸術を発表し続けており、その集大成となる「光と闇の音」シリーズは、福岡・東京・熊本などで公開されている。